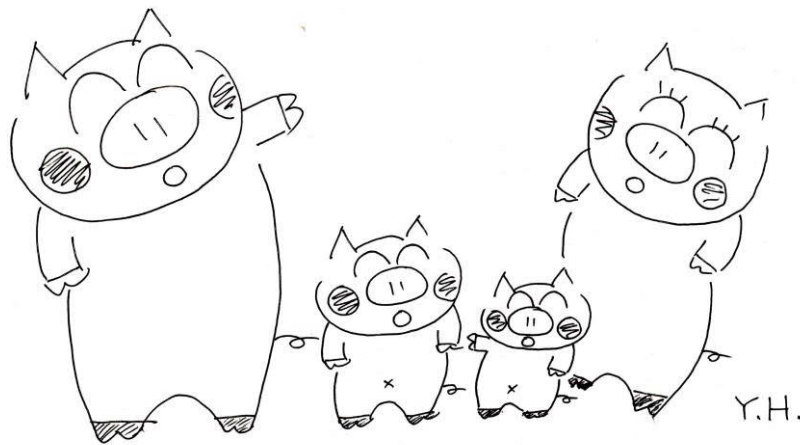


社会学 (sociology)



悩み事の原因を他人のせいにしていませんか？

「社会学」とは一体、どのような学問なのか？

社会学というが、では「社会」とは一体どのような状態をいうのか？

では、「社会」はどのようにして「つくり上げていく」のか？

「人間」が生きていく上で「社会」というものは必要なのか？

そもそも「人間」とはどのような存在なのか？

そんな疑問を一緒に解決するべく、この講義を楽しみ、
「社会“学”」で「社会“楽”」にしてみましょう。

それが、この講義の目標です。

担当者の簡単なプロフィール

1967年(昭和42年)2月4日 横浜市生まれ(現在も横浜市在住) ←丙午と同学年
日本大学兼任講師(担当: 社会学、国際社会学入門、日本の社会、文化人類学 ほか)
最終学歴: 日本大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得
研究テーマ: 韓国における日本大衆文化開放、役割演技論、人間関係とストレス

使用テキスト 服部慶亘『補強版ストレス・スパイラル』人間の科学社
(白山通り、経済学部7号館近くの丸沼書店で購入のこと)

担当 **服部慶亘** (Yoshinobu HATTORI, M.A.)
<http://www.bewith.ac> hattori.yoshinobu@nihon-u.ac.jp

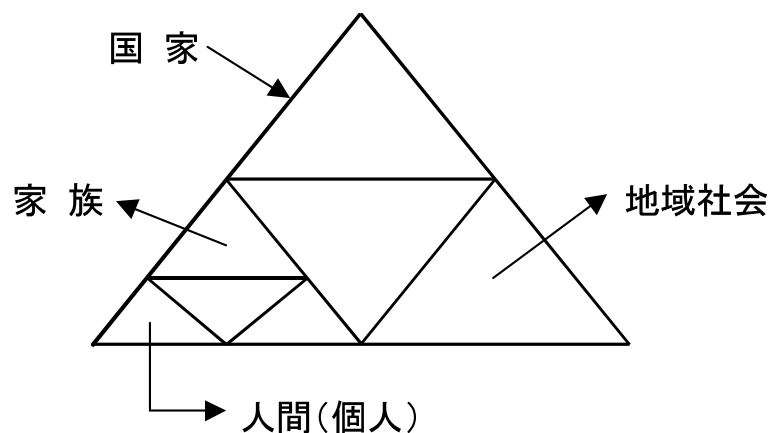
「人間」「社会」「国家」「文化」について考える前に...

前提として...

国家も、政治も、地域社会も、学校も、民族も、家族も、組織も、細分化していくと、全て人間の業である



「人間」を理解せずに「社会」「文化」を語ることは出来ない



Don't think. Feel!

考えるな！ 感じるのだ！

例えば、買い物中に値札を見て、その価格設定に至る経済効率や利潤追求のメカニズムを“考える”よりも、「高い！」「安い！」と“感じる”ことが先立つことで状況が理解できる



ただし、その感覚を後になって “How it (they) came to be...” あるいは “Why it (they) came to be...” というように考えられる知識と技術が必要



先ず感じたことを把握し、後で考えることが大切であり、単に感情を垂れ流すことは厳禁

科目名	社会学 I	担当者	服部 慶巨	部別	第一部	期間	前期	単位数	2
-----	-------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々は、「社会」とのかかわりの中で「人間らしさ」を身に付ける。つまり、「社会とのかかわりを拒否してしまえば自由な人間になれる」ということは有り得ない。この講義では、「人間」としての評価を落とさずに生きていくために必要とされる「社会学的想像力」を通して、日常生活の様々な場面を分析する。			
授業目的・到達目標	人間は、独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在である。故に、共同生活を営む者（仲間）が必要不可欠となる。よって、社会生活は（必ずしも）自分の思い通りにゆくものではない。このような現実を、理論的・実践的に理解する視点を養成することを目的とする。 また、「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、そんな疑問と対峙しつつ、学問が日常生活と密接に関わっていることを理解し、社会学的な視点を身につけることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 6			
履修条件	特になし。ただし、「社会学II」も継続履修することが望ましい。			
授業方法	受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。定期試験の解説を後日、担当者のサイトで配信する予定。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	講義内容をどの程度理解したか、どの程度自分の日常に活かしているのかを確認する。	
	平常評価	30%	授業参画度（20%）、レポート類（10%）で評価する予定。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	初回授業内で指示する。		
参考書	追って指示する。なお、講義で使用するプリントは、事前にサーバからダウンロードしてもらうことになる（詳細は、初回の講義で説明する予定）。			
オフィスアワー	木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu1@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。（2時間）
	授業内容	前期ガイダンス 講義の方針、展開方法、目標などを確認する。
	事後学習	テキストを入手し、「プロローグ」に目を通しておく。（2時間）
2	事前学習	前回の講義内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	状況（情況）判断① 疑似環境、状況（情況）的影響について。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
3	事前学習	前回までの講義内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	状況（情況）判断② レディネス（readiness）の重要性について。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
4	事前学習	これまでの講義内容をふまえて、「日常生活」について説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	社会（学）とは何か？ 社会学の研究対象である「社会」について、その構造と機能を理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）

5	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	社会的動物としての人間① 現代人にとって欠如傾向にある福祉的観点 (Double Happiness) を理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
6	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	社会的動物としての人間② 人間が他の哺乳動物と異なる点について考察する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
7	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造① 人間とヒトの違いについて理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
8	事前学習	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造② 人間 (Human Being) の本質について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
9	事前学習	区分7～8の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造③ パーソナリティ (personality) の形成要因について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
10	事前学習	区分7～9の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造④ 人間関係における地位 (status) について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
11	事前学習	区分7～10の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑤ 人間関係における役割 (role) について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
12	事前学習	区分7～11の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑥ 地位を性質的に分類する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
13	事前学習	区分7～12の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑦ 構造的地位としての「アイドル」 (idol) について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
14	事前学習	区分7～13の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑧ 県民性 構造的役割と対人的役割および生得的役割としての「性差」について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
15	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	「社会学Ⅰ」まとめ ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。
	事後学習	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。(2時間)

科目名	社会学Ⅱ	担当者	服部 慶巨	部別	第一部	期間	後期	単位数	2
-----	------	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々は、「社会」とのかかわりの中で「人間らしさ」を身に付ける。つまり、「社会とのかかわりを拒否してしまえば自由な人間になれる」ということは有り得ない。「人間」としての評価を落とさずに生きていくために必要とされる「社会学的想像力」を通して、日常生活の様々な場面を分析する。			
授業目的・到達目標	人間は独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在であるが故に、社会生活の中で我々は様々な「問題」と遭遇する。本講義では、「問題行動」の発生要因を知り、それらの解決方法や防衛方法を社会学的に理解する視点を養成することを目的とする。 また、「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、そんな疑問と対峙しつつ、学問が日常生活と密接に関わっていることを理解し、社会学的な視点を身につけることを目標とする。 関連DP及びCP：総合科目・体育実技科目領域1, 2, 3, 6			
履修条件	特にないが、同一担当者による「社会学Ⅰ」を履修していることが望ましい。			
授業方法	受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。定期試験の解説を後日、担当者のサイトで配信する予定。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	講義内容をどの程度理解したか、どの程度自分の日常に活かしているのかを確認する。	
	平常評価	30%	授業参画度（20%）、レポート類（10%）で評価する予定。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	初回授業内で指示する。なお、「社会学Ⅰ」履修者は、同一教科書を使用する。		
参考書	追って指示する。なお、講義で使用するプリントは、事前にサーバからダウンロードしてもらうことになる（詳細は、初回の講義で説明する予定）。			
オフィスアワー	木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu1@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	「社会学Ⅱ」から履修を開始する学生は、シラバスを読んで講義の目的・目標を理解する。「社会学Ⅰ」からの継続履修学生は、これまでの講義内容をテキストやノート、資料を読んで復習しておく。（2時間）
	授業内容	ガイダンス 講義の方針、展開方法、目標などを確認する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。なお、「社会学Ⅱ」から履修を開始する学生は、テキストを入手して「プロローグ」に目を通しておく。（2時間）
2	事前学習	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の根源① 「問題行動」をとらえる際の留意点について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
3	事前学習	前回までの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	問題行動の根源② 「行為」と「行動」の性質の違いについて理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）
4	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。（2時間）
	授業内容	視聴覚機器による問題行動の理解① 韓国で放送された日本のアニメーションがどのように編集されるのか、映像を通して確認する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認（照会）する。（2時間）

5	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	視聴覚機器による問題行動の理解② 韓国で放送された日本のアニメ主題曲がどのように編集されるのか、映像を通して確認する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
6	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の根源③ 「罪」の定義および構造について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
7	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の根源④ 「罪」と「超自我」の関係性について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
8	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の根源⑤ アノミー(anomie)現象について、実例を上げて説明する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
9	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の誤対処① 現代社会における「人生縮小化」傾向について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
10	事前学習	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の誤対処② 「問題」に直面した時に起こり得る「リセット願望」と「リロード願望」について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
11	事前学習	区分9～10の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の誤対処③ 人間の本能的反応としての「防衛機制」について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
12	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	「正義」の含意① 日本人の発想(一元論、二元論、多元論)と「正義」の関係性を考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。(2時間)
13	事前学習	区分12の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	「正義」の含意② 日本人の精神的根幹である「私」(わたくし)について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。(2時間)
14	事前学習	区分12～13の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	「正義」の含意③ 「正義」の定義および性質について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。(2時間)
15	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	「社会学Ⅱ」まとめ ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。
	事後学習	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。(2時間)

科目名	社会学	担当者	服部 慶巨	部別	第一部	期間	通年	単位数	4
-----	-----	-----	-------	----	-----	----	----	-----	---

授業概要	我々は、「社会」とのかかわりの中で「人間らしさ」を身に付ける。つまり、「社会とのかかわりを拒否してしまえば自由な人間になれる」ということは有り得ない。「人間」としての評価を落とさずに生きていくために必要とされる「社会学的想像力」を通して、日常生活の様々な場面を分析する。			
授業目的・到達目標	人間は、独りで生きてゆくことの出来ない弱い存在である。故に、共同生活を営む者（仲間）が必要不可欠となる。よって、社会生活は（必ずしも）自分の思い通りにゆくものではない。このような現実を、理論的・実践的に理解する視点を養成することを目的とする。また、「大学で学んだことは、日常で役に立たない」という声を聞くが、そんな疑問と対峙しつつ、学問が日常生活と密接に関わっていることを理解し、社会学的な視点を身につけることを目標とする。			
履修条件	特になし。			
授業方法	受講生自身も陥りがちな（問題）行動を例示し、講義する。パワーポイント・テキスト類・プリント・視聴覚資料などを理解の助けとする。定期試験の解説を後日、担当者のサイトで配信する予定。			
成績評価	種別	割合	評価方法	
	定期試験	70%	講義内容をどの程度理解したか、どの程度自分の日常に活かしているのかを確認する。	
	平常評価	30%	受講態度（20%）、レポート類（10%）で評価する予定。	
教科書	年	出版社	書名	著者名
	備考	初回授業内で指示する		
参考書	追って指示する。なお、講義で使用するプリントは、事前にサーバからダウンロードしてもらうことになる（詳細は、初回の講義で説明する予定）。			
オフィスアワー	木曜日（12:20～13:00）に授業講堂にて、または、hattori.yoshinobu1@nihon-u.ac.jpにて質問・相談を受け付ける。			

【授業計画】

回数	授業内容	
1	事前学習	シラバスを読んで、講義の目的・目標を理解する。（2時間）
	授業内容	前期ガイダンス 講義の方針、展開方法、目標などを確認する。
	事後学習	テキストを入手し、「プロローグ」に目を通しておく。（2時間）
2	事前学習	前回の講義内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	状況（情況）判断① 疑似環境、状況（情況）的影響について。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
3	事前学習	前回までの講義内容を確認しておく。（2時間）
	授業内容	状況（情況）判断② レディネス（readiness）の重要性について。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）
4	事前学習	これまでの講義内容をふまえて、「日常生活」について説明できるようにしておく。（2時間）
	授業内容	社会（学）とは何か？ 社会学の研究対象である「社会」について、その構造と機能を理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）する。（2時間）

5	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	社会的動物としての人間① 現代人にとって欠如傾向にある福祉的観点 (Double Happiness) を理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
6	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	社会的動物としての人間② 人間が他の哺乳動物と異なる点について考察する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
7	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造① 人間とヒトの違いについて理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
8	事前学習	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造② 人間 (Human Being) の本質について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
9	事前学習	区分7～8の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造③ パーソナリティ (personality) の形成要因について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
10	事前学習	区分7～9の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造④ 人間関係における地位 (status) について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
11	事前学習	区分7～10の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑤ 人間関係における役割 (role) について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
12	事前学習	区分7～11の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑥ 地位を性質的に分類する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
13	事前学習	区分7～12の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑦ 構造的地位としての「アイドル」 (idol) について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
14	事前学習	区分7～13の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	人間関係の諸相と構造⑧ 構造的役割と対人的役割および生得的役割としての「性差」について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認 (実践) する。(2時間)
15	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	前半まとめ ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。
	事後学習	これまでの講義内容を復習し、後期の講義に備えておく。(2時間)
16	事前学習	これまでの講義内容をテキストやノート、資料を読んで復習しておく。(2時間)
	授業内容	後期ガイダンス 講義の方針、展開方法、目標などを確認する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認 (照会) する。(2時間)

17	事前学習	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の根源① 「問題行動」をとらえる際の留意点について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
18	事前学習	区分16からの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の根源② 「行為」と「行動」の性質の違いについて理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
19	事前学習	区分16からの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	視聴覚機器による問題行動の理解① 韓国で放送された日本のアニメーションがどのように編集されるのか、映像を通して確認する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
20	事前学習	区分16からの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	視聴覚機器による問題行動の理解② 韓国で放送された日本のアニメ主題曲がどのように編集されるのか、映像を通して確認する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
21	事前学習	区分16からの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の根源③ 「罪」の定義および構造について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
22	事前学習	区分16からの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の根源④ 「罪」と「超自我」の関係性について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
23	事前学習	区分16からの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の根源⑤ アノミー(anomie)現象について、実例を上げて説明する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
24	事前学習	区分16からの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の誤対処① 現代社会における「人生縮小化」傾向について考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
25	事前学習	前回の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の誤対処② 「問題」に直面した時に起こり得る「リセット願望」と「リロード願望」について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
26	事前学習	区分24～25の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	問題行動の誤対処③ 人間の本能的反応としての「防衛機制」について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中で確認(照会)する。(2時間)
27	事前学習	区分16からの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	「正義」の含意① 日本人の発想(一元論、二元論、多元論)と「正義」の関係性を考える。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。(2時間)
28	事前学習	区分27の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	「正義」の含意② 日本人の精神的根幹である「私」(わたくし)について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。(2時間)

29	事前学習	区分27～28の講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	「正義」の含意③ 「正義」の定義および性質について理解する。
	事後学習	講義で紹介された事例・概念などを自身の日常生活の中でキチンと確認(実践)する。(2時間)
30	事前学習	これまでの講義内容を、テキストやノート、資料を読んで再確認しておく。(2時間)
	授業内容	後半まとめ ここまでの解説内容を、実際に知識・技術に結びつけられたかどうか確認する。
	事後学習	定期試験に向けて、これまでの講義内容を復習しておく。(2時間)


日本大学連絡板

일본대학 연락판
Yoshibe's Information about Nihon University

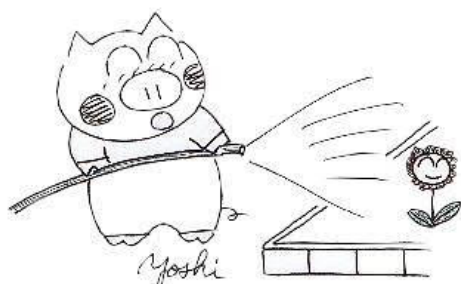
私が複数の大学・学部に出講している関係で、学生との連絡がリアルタイムで取れる状態を作るのが困難な状態にあります。そのため、私個人のホームページ (<http://www.bewith.ac>) において、学生への連絡板を開設しています。

連絡板は、携帯端末からもアクセス可能です。ただし、携帯端末を使用する場合は、下記のURLを入力してダイレクトアクセスするか、QRコードを使用してください。

「ブックマーク」や「お気に入り」「マイリンク」などの登録は、「日本大学連絡板」と表示されているページでお願いします。それぞれの該当する科目のページを登録すると、以降いっさい更新されたページが表示できなくなるおそれがあります。

連絡板URL			
全学部	http://nihon-u.bewith.ac		
Eメール		前期	後期
国際関係学部	hattori.yoshinobu11@nihon-u.ac.jp	月	
法学部		木	
通信教育部		金	
看護専門学校		一	木・金
文理学部		木	
「件名」に、所属・学年・受講科目・氏名を！ 携帯端末から送信する人は、受信可能時間帯を申告。			

連絡板の使用により、大学(専門学校)からの連絡(掲示)よりも早くに休講やレポート課題などについての情報を入手することが出来ます。シラバスも閲覧できますが、これはPDFファイルでの公開になります。



안녕하세요! 리눅스리눅스! 리눅스! 리눅스! 리눅스!

服部慶巨
(Yoshinobu HATTORI)
(핫토리 요시노부)